森林レンジャーがゆく
「山の上」

Vol.154

近年の自然の状況は、生き生きとしていた森林の生態系が大幅に乱れ、望ましい姿から離れていくような異常事態です。そんな状況の山を歩いていて、力強く生きている生き物を見つけると、とても輝かしく見えてしまうから不思議です。厳しい今の自然の状況を耐えている巨木は宝物の一つです。このような巨木は、古くからある山道などに生き残っていることが多く、見やすい場所によくあります。

今回、お気に入りとして紹介するのは、高明山の登山道の途中にある「大モミ」です。この巨木は、市内で見られる「大モミ」の中でも最大級で、まっすぐに伸びている普通のモミの木とは違い、三つに分かれているように見える樹木です。内二つは既に枯れて折れている状態ですが、存在感が素晴らしく魅力的です。また、この巨木をよく見ると、ツキノワグマが木の途中まで登った爪痕や、キツツキの仲間が開けた穴などさまざまな動物の痕跡が見つかります。このように1本の巨木からも自然の中では全てが繋がっている様子が分かります。この巨木が好きな理由は、何度傷ついても逆風の中で耐えている生命力が、乱れている人間社会での私たちの生き方に何か伝えようとしているように思えるからでしょう。あなたの周りの自然にもきっとたくましく生きている宝物が存在していると思います。ぜひ皆さんもデジタル社会から抜け出し、自分の目で輝かしい生き物たちを見つけてみてください。何倍も輝いて見えるかと思います。

（パブロ）

